

こだわりの【自社ブランド製造】技術・技能を後世まで伝承

長谷川製作所は1946年設立時より一貫した「自社ブランド製品」にこだわってきました。それは、合成樹脂成形品やその技術を応用した配線器具、仮設電気工事用の分岐ケーブルや照明器具、国内唯一の一体圧空成形技術によるアクリルグローブ、更には建造物の外壁に採用される落ちないタイルシステム「カーニバル工法」など、常にオリジナル製品を創り出してきたという60余年の歴史に裏づけられています。そして、製品設計から品質管理、メンテナンスに至るまでを包括して自社で行うからこそ、きめ細やかな顧客満足が実現できるという矜持を持っています。

いつの時代、いかなる経営環境の下でも持続的に成長し続ける企業に必要なものは何か、というミッションを全従業員一人ひとりが共用し、その解決プロセスによって企業価値が更に高まるとともに、優れた技術力と組織力を持つオンリーワン企業になれると信じています。

Company Profile Category：照明機器製造

商号	株式会社 長谷川製作所
設立	1946年1月15日
本社所在地	埼玉県川崎市下小坂52番地
資本金	12百万円
事業内容	1)仮設工事用分岐ケーブルの製造・販売 2)仮設照明器具の製造・販売 3)街路灯用大型アクリル成型品の製造・販売 4)外壁リフォーム製品の製造・販売



製品イメージ



外観

背景（ものづくりの理念）

1. 社会と地域を大切に、企業の成長と社員の幸せと協力企業の繁栄が融合する企業を目指します。
2. 私達はお客様に喜ばれる、特色のあるものづくり企業を目指します。
3. 創造する頭脳と、優れた品質を作りこむ手、販売サービスする足を持つバランスの取れた企業を目指します。
4. 限りある資源を有効に活用し、自然と共生できる企業を目指します。

これらものづくりの理念をより効率良く実現させる為、現場作業の分析・改善に着手した。



照明器具 組立工程

課題

1. 作業改善（ムリ・ムダの排除とその徹底）

現場作業の時間測定は各部門長がリアルタイムで測定しているが、「秒単位の作業にもかわらず分単位レベルで把握する」程度の内容である為、作業のムリ・ムダの発見や排除、徹底がなされていない。

2. 個人のスキル向上と品質の安定化

年齢による技術・技能に差があることは分かっていたが、技術向上の為の教育体制がまだ確立されていない。現状は、ベテランが新人にマンツーマン指導をしているが、ジェネレーションギャップもあり、言葉だけで指導するには限界があり難しい。

3. 現場での作業を無理なく効率的にこなしたい

作業効率10%の向上を目指しているが、どの様な方法で効率を上げていくか方法論を見いだせなかった。

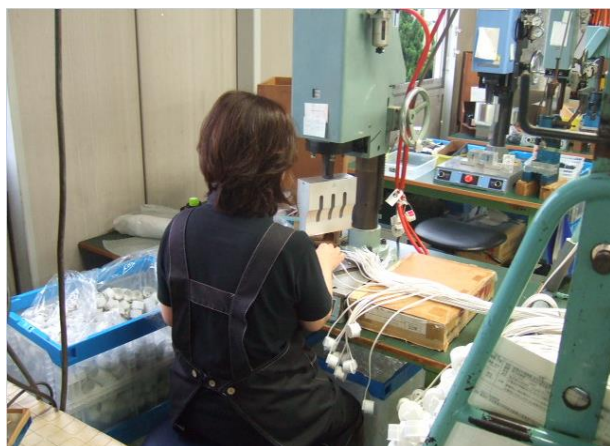
上記課題解決のため、作業分析用ソフト導入を検討していたところ、「タイムプリズム」に出会い導入に踏み切った。

活用

「タイムプリズム」活用については、まず【分単位レベルの測定】から適正な【秒単位の測定】にシフトすることに重点を置いた。

今まであいまいだった作業時間が適正であるかの判断を、厳密に実測数字で判断できるようにすることが現場作業の改善には欠かせないことであると認識した。

また、分析結果検証（動画マニュアル作成）機能とTPビューワー機能は頻度を高めながら活用している。現状は全ての作業工程にまで行き届いていないが、今後各作業者が標準作業の動画を常に見られる環境を整えていきたい。



蛍光灯ソケット 部品溶着（ようちやく）工程



照明器具 配線接続工程

効果

- 作業分析の仕方を理解した : 今までストップウォッチ活用しか知らなかった作業時間の測定が、映像を使った作業分析ソフトウェア「タイムプリズム」を活用することで、より合理的に行えることが理解できた。
- 作業時間の把握の仕方が変わった : 作業分析機能で、映像をマウスクリックすることで簡単に作業要素分けができ、要素時間が自動計測される。【分単位レベルの測定】から【秒単位の測定】へ脱却できた。
- 取り組む姿勢・意欲が向上した（必要度合いが高まった） : 「タイムプリズム」導入がきっかけで、各作業員の意識改革ができた。どうすれば作業効率を上げられるか、各々が考えながら作業に取り組むようになった。
- ボトルネックが見つけ易くなった : 作業分析機能の中の「分析仕訳」「作業分類」項目を使って、作業要素の付加価値の高低や作業内容が入力でき、生産工程や作業プロセスにおける手間や時間を要した箇所が発見し易くなった。

ユーザー様の声



製造部 杉山主任

「タイムプリズム」使用当初は組立マニュアルの作成を主だった目的としていましたが、作業の分析をすることにより見えてきたことがあります。それは作業の平準化や作業改善の手助けになるアイテムであるということです。

作業時間の短縮、作業手順の変更、不要作業の削除など、弊社の利益に貢献できる可能性があると考えております。

今後は作業効率の向上や品質の安定向上を目的に、更に使用頻度を高めていきたいと思っております。

長谷川製作所製品イメージ

